

## プロジェクト 「にんにく」で儲かる産地づくり

## 目 標

- ・国産シェア R4：66% → R10：66%
- ・単収（出荷量） H30～R4年産平均：693kg/10a → R5～R9年産平均：753kg/10a
- ・品質（A B品率） H30～R4年産平均：77% → R5～R9年産平均：85%

## 挑戦する内容

- ・労働力不足に対応した省力化技術の普及
- ・種苗増殖管理技術向上に向けた取組
- ・「青森福雪」の栽培技術の確立
- ・高温に応じた栽培技術の再構築

関係者の声  
＝対話

- ・労働力の確保や作業の軽労化が課題となっている（JA）
- ・品質の良いにんにくを生産するためには、土壌診断結果に基づいた土づくりを行ったほ場に、優良種苗を植付けることが重要と考えている（生産者）
- ・「青森福雪」は球の肥大性に優れていることから、春腐病の発生要因究明及び対策技術が確立されたら導入したい（生産者）
- ・高温環境での植付時期、病害虫防除時期、乾燥方法などを示してほしい（JA）

## 役割分担

- ・全農あおもり、JA：優良種苗増殖、研修会開催、実証ほ等設置運営、現地指導
- ・産技センター：優良種苗供給、新品種の栽培技術や高温に対応した栽培技術の見直し、イモグサレセンチュウ調査
- ・県：優良種苗供給体制整備、研修会・会議開催、現地指導、実証ほ設置等

## 変革後の姿

- ・県産にんにくのトップブランド地位を将来にわたって堅持
- ・省力化・品質の安定化による面積の維持
- ・優良種苗増殖技術の向上及び肥大に優れる「青森福雪」の導入によるA品率と単収の向上

## 令和8年度計画

## 挑戦する内容

- 1 労働力不足に対応した省力化技術の普及
  - ・大型ファンを活用した乾燥方法の普及・拡大
- 2 種苗増殖管理技術向上に向けた取組
  - ・指導者及び生産者に対する種苗増殖専用ほ場管理技術の指導
  - ・反射マルチを活用したアブラムシ類の忌避技術の確立（野菜研）
  - ・イモグサレセンチュウの被害発生事例を基にした対策の強化（野菜研）
  - 【重点エリア（農林水産事務所別ミッション）】上北地域
- 3 「青森福雪」の栽培技術の確立
  - ・適切な施肥窒素量の把握試験の実施（野菜研）
  - ・春腐病多発要因の究明及び対策技術の確立試験の実施（野菜研）
  - ・品種特性に応じた栽培技術確立のための実証ほの設置（令和8年度植付8か所）
  - ・品種特性確認のための現地試作ほの設置（令和8年度植付7か所）
- 4 高温に応じた栽培技術の再構築
  - ・高温による生育障害抑制技術試験の実施（野菜研）
  - ・高温に対応した栽培方法（植付時期、施肥）の試験実施及び乾燥方法の現地事例調査の実施（野菜研）



優良種苗栽培技術研修会



種苗供給に係る意見交換会

## 対話

- ・部会や県にんにく優良種苗生産指導プロジェクトチーム会議、研修会等の場を活用しながら、意見を聞き取り、事業構築に反映（7月、9月、1月）